

# ソーシャルワーカー 協会だより

第120号

■発行：新潟県医療ソーシャルワーカー協会

■事務局：新潟中央病院

■発行：令和3年1月

## 巻頭言（広報部）



J A新潟厚生連  
糸魚川総合病院

渡辺 攻

今年度より広報部理事となりました渡辺です。私は高校卒業後、大学で社会福祉を学び、卒業後は憧れであった医療ソーシャルワーカーになるため、県外の医療機関に就職しました。慣れない土地での新社会人、不安も大きかったですが、急性期から慢性期まで切れ目のない包括的な支援を提供することを理念とする法人で、ソーシャルワーカーとして多くのことを学ぶことができました。その後は新潟県に戻り、以前の経験を生かしながら、地元の方々の支援に携わることができることを、とても幸せに感じています。また、職場の上司や仲間たちにも恵まれ、充実した日々を過ごすことができます。

学生時代からこれまで、それぞれの場面で多くの人に出会い、多くのことを学ぶことができました。今回、協会活動に携わるチャンスを頂き、新しい出会いを大切に、更に自分自身の成長の糧にしたいと考えています。

さて、広報部における私の業務は活動報告集の作成とグループコミュニケーションアプリ「BAND」を活用した会員の皆様への情報提供です。

活動報告集に関しては年一回作成し、協会の活動を皆様にお届けできるようわかりやすく、魅力のあるものを作成したいと考えています。

「BAND」による情報提供に関しては、研修情報等をタイムリーに皆様の元にお届けしたいと考えています。

当協会の発展に貢献できるよう、精一杯務めさせていただきます。今後ともよろしく申し上げます。



特別養護老人ホーム  
しなの園

斉藤 健也

昨年度から広報部理事をさせていただきました。私は特養で生活相談員をしており、医療分野ではないので、当協会の理事でよいのかという思いが正直あります。

私は高卒でフリーターをしていましたが、当時「これからは介護の時代」という流れで、何も目標がなかった私は親のすすめで介護職に就き、後に生活相談員となりました。当時ショートステイの相談員でしたのでケアマネジャーや医療ソーシャルワーカーと関わることが多く、この人たちは何の仕事をしているのだろうと思い、そこから勉強をして介護支援専門員や社会福祉士の資格を取得しました。

私が当協会を知ったきっかけは、同じ南区でお世話になっているケアマネジャーの石井さんからすすめられ入会しました。また、南区つながりで当協会の小山副会長から「スーパービジョン」の勉強会に声をかけていただき、新潟医療福祉大学の河野教授ご指導のもと、老健入船の阿部さんの「チーム阿部」で勉強させていただきました。とても良いメンバーに巡り合うことができ、桑名病院の鈴木さんと退院支援では「特養だと、こんな現状ありますよね」と、私達の現状を理解してつなげてもらえたことがうれしかった記憶があります。ソーシャルワーク実践において様々な分野の実情を知ることが大切で、まさに様々なネットワークを築けたことが、医療ソーシャルワーカー協会の会員としての魅力だと感じています。

皆様とは学歴も職種も違いますが、広報部理事として協会の活動、魅力を発信していきたいと思っております。どうぞ、よろしく申し上げます。

## バックナンバー

コロナウイルスが流行し始めた令和2年3月号に掲載する予定でしたが、敢え無く協会だよりを発行することができませんでした。そこでお蔵入りになってしまった記事を、今回バックナンバーという形で掲載させていただきます。

### 「財政部の活動紹介と運営を通して得られたもの」

信楽園病院 熊谷 麻美  
(前、財政部理事)

私が財政部理事になったきっかけは、当協会60周年記念事業の開催で日本医療社会福祉協会全国大会を新潟に誘致することになり、実行委員を務めたことに始まります。全国大会実行委員から財政部の運営委員を経て理事になりました。協会活動の運営に携わるようになって初めて、今まで当たり前のように参加していた協会の研修や催しの一つひとつに重みを感じるようになりました。各部署の皆さんが日々頭を悩ませて企画、立案していることが目に見えてわかるようになったからです。常日頃私たちが行っているソーシャルワークが更に良いものになるよう、会長、副会長、事務局、教育研修部、社会活動部、実績報告部、広報部の皆さんが、多方面から最新情報を届けたり、改善を図ったり、様々な会議に出席してくれています。

財政部では、協会活動がストレスなく滞りなく行えるよう、協会員、賛助会員の会費を管理し、適切に配分するよう努力しています。社会の変化とともにMSWに求められることも日々変化し、職能団体であるMSW協会に求められること、MSWに必要な情報も多くなっています。それに伴い、当然のことながら資金も必要となり、限られた資金の中での予算立てが重要になっていきます。私たち財政部はMSW協会の裏方、縁の下の力持ちのような存在だと自負しています。その名の通り、財政部は1年を通して、お金の管理をしています。各部署や自主活動助成金事業などに、年度初めに立てた予算額を目安に会員の皆様からいただいた会費、賛助会費等を分配しています。また、災害が発生した際は被災地に寄付金も送らせていただいています。会費納入が未納の方には財政部理事、運営委員で1年に何度か電話等で督促作業を行っていますが、お金に関することはシビアなので、心苦しく思いながら電話を握っています。そして財政部のいちばんの繁忙期は年度初めから総会にかけて。各部署の今年度の収支決算、残金確認、来年度の予算案を作成します。この時期は理事、運営委員とも寝不足でボーっとしたような日々を過ごしていると感じられることがあるかもしれませんがご容赦ください。財政部では今後の協会活動が更に良いものになるよう、皆様からいただく会費をしっかりと管理していきます。そのためには、皆様の会費納入が頼りとなっていますので、入金をお願いできればと思います。

協会活動の運営は決して楽な仕事ではありませんが、携わるようになり、職場という限られたフィールドだけでは得られないことを経験でき、ソーシャルワーク実践にも繋がっていると思っています。職場では教わらないことを他病院の方から教えてもらい、横のつながりのネットワークもでき、考え方に一つの豊かさを与えてくれました。また、時に楽しいこともあったり、支えてもらったり、良い意味で逃げ場でもあると思えたこともあります。それは個々人で感じ方は違うと思いますが、そんな収穫もあります。我こそはと思う方も思わない方も協会活動の運営にぜひ参画していただきたいです。そういった方が増えれば、協会自体も成長、発展していくのではないかと思います。私は三役、理事の皆様から学んだことを、今度は次の人を支えることで恩返しをしていきたいです。これからもよろしく願いいたします。

#### ～編集後記～

最近ではオンラインでの研修会や会議が主流となってきました。メリット、デメリットはありますが、正直まだ慣れない感じがしています。

今後も当協会活動につきましては、随時協会ホームページ等でお知らせいたします。(広報部)